

平成 30 年度第 1 学期終業式校長式辞

皆さんこんにちは。

本来、終業式は 20 日を予定していましたが、今回の豪雨災害により、皆さんが住んでいる地域が被害を受け、公共交通機関も復旧するまでにまだ至っていない状況では、多くの生徒が落ち着いて勉強に取り組むことは困難と判断し、急遽終業式を今日に繰り上げることにしました。今日のこの終業式に、交通事情が大変悪い中、登校してくれた多くの生徒の皆さんに大変感謝したいと思います。

さて、今回の豪雨災害により西日本では広域にわたって甚大な被害を蒙りました。皆さんのなかにも、住まいや周辺の道路などに大小に関わらず被害を受けたところが少なくないことでしょう。鉄道や道路の復旧状況も思わしくなく、落ち着くまでには時間がかかると思いますが、少しずつでも良い状況に戻っていくことを願っています。

災害発生後、厳しい状況の下で、生徒諸君は協力し合って頑張ってくれたと思っています。これまでに、多くの本校の生徒諸君が「何かの役に立ちたい」との思いから支援活動・ボランティア活動に関わったのではないのでしょうか。災害発生後、土砂が流れ込んだ自宅の復旧に頑張った人、被災した近所の家の片づけを手伝った人、また、通りすがりに、土砂の撤去作業を行っていた地域の方に声をかけ、そのまま作業を手伝った人。にじみ出る生徒諸君の支援に対し、感謝の言葉が地域の方々から学校にも多く届きましたし、新聞報道でも目にすることができました。災害発生から本日までの間、多くの諸君が、それぞれ自分にできることを自分の頭で考え、主体的に行動してくれました。そのことに対して生徒諸君に敬意を表すとともに心から感謝したいと思います。

今できることを自分で考えて、行動に移すことができるのはとても素晴らしいことです。相手を思いやる気持ち、人のために何とかしなければという君たちの気持ちをこれからも大切にしてください。

そして、夏休みに入ってから支援活動・ボランティア活動に取り組みたいと考えている皆さんもいることでしょう。ただ、皆さん、何よりも安全第一であることを忘れないようにしてください。自分本位の考えでは人の役に立つどころか、二次災害を引き起こすこともあります。十分な準備をして活動してください。

また、皆さんの中には支援活動・ボランティア活動に様々な事情で参加できない人もいるでしょうが、それを引け目に感じる必要は全くありません。専門家の方も「心身の休息が気持ちを整理し、前向きな力の源になる」と仰っておられます。焦ってはいけません。今は全ての生徒の皆さんに、思っている以上に、心に負担がかかっていると思います。疲れた時は無理をせず休みながらこの災害を乗り越えてもらいたいと願っています。辛い時は我慢せず、弱音を吐きたいときは周囲の人に聞いてもらうだけでも気が楽になる場合があります。もし、心身ともに辛くなったら、保護者の方や、友達、担任の先生などに必ず相談してください。

さて、1学期が今日で終わり、これから夏休みに入りますが、夏休みを単なる休みや遊びに費やすことなく、いつ、どこで、何が起きるかわからないという今回の件を踏まえて、時間の大切さを改めて感じてもらうとともに、自己鍛錬のいいチャンスにしてください。

また、夏休みには、健康面、安全面に十分注意を払ってください。この夏も既に猛暑です。まだまだライフラインが復旧途上の地域が多くあります。熱中症や、水の事故等に十分注意してください。健康面の管理、事故防止について、各自、気を引き締め、万全の注意を払うことをお願いします。

それでは、8月6日の登校日、8月20日の2学期始業式には今日よりも多くの生徒が元気に登校してくれることを願って、終業式の式辞とします。